

平成30年度 第3回 温海地域振興懇談会

次 第

日 時 平成30年10月25日(木)
午後1時30分～
場 所 温海庁舎 6階大会議室

1. 開 会

2. あいさつ

3. 報 告

計画策定経過と今後の予定について 資料No. 1

4. 協 議

(1) 温海地域振興計画 (案) について 資料No. 2

(2) 温海地域まちづくり未来事業計画 (案) 資料No. 3

(3) その他

5. 閉 会

温海地域振興懇談会委員名簿

任期:平成29年6月1日～平成31年3月31日

役職名等	氏名	備考
会 長	忠 鉢 孝 喜	
副 会 長	佐 藤 満 也	
委 員	本 間 文 夫	
委 員	菅 原 久 継	
委 員	佐 藤 清 八 郎	
委 員	若 松 邦 彦	
委 員	本 間 岩	
委 員	佐 々 木 眞 人	
委 員	遠 藤 正 司	
委 員	佐 藤 美 代 子	
委 員	齋 藤 武 大	
委 員	高 橋 清	
委 員	五 十 嵐 伊 都 夫	
委 員	五 十 嵐 正 直	
委 員	本 間 加 知 子	

【市関係者】

所 属	職 名	氏 名	備 考
温海庁舎	支 所 長	渡 会 悟	
温海庁舎 総務企画課	課 長	粕 谷 一 郎	
温海庁舎 市民福祉課	課 長	佐 藤 美 香	
温海庁舎 産業建設課	課 長	百 瀬 政 行	
温海庁舎 総務企画課	総務地域振興主査	庄 司 益 美	
温海庁舎 総務企画課	地域まちづくり企画調整主査	伊 藤 隆	
企画部 地域振興課	地 域 振 興 専 門 員	本 間 育 子	

計画策定経過と今後の予定

1. 市民からの意見聴取概要

開催日	団体名等	意見聴取等のテーマ
5月10日	鶴岡まちづくり塾 温海グループ	温海地域の「まちづくりの方向性」
5月22日	温海温泉旅館組合青年部	あつみ温泉の振興
5月30日	第1回温海地域振興懇談会	これからの10年で温海地域の活性化に重視したい着眼点
6月6日	あつみ湯けむり女子会	温海地域の「まちづくりの方向性」
7月3日	鶴岡まちづくり塾 温海グループ	この10年で鶴岡市温海地域に大切なこと(もの)
7月9日	温海農業次世代担い手ミーティング	担い手の確保と10年後の温海地域の農業 廃校施設の利活用 中山間地域ならではの作物振興
8月9日	第2回温海地域振興懇談会	温海地域の今後の「施策の方向性」及び「具体的事業」
8月24日	温海地域農業振興会議	鶴岡市農業・農村振興計画(つるおかアグリプラン)の策定
8月30日	自治会長会	地域振興の方向性等(市長との対話集会)
9月11日	温海地域喋くりナイト(温海地域の未来を語る会)	各種地域振興団体の活動方針、温海地域の未来や課題解決策を語り合う
10月25日	第3回温海地域振興懇談会	温海地域振興計画(案) 温海地域まちづくり未来事業計画(案)
2月	第4回温海地域振興懇談会	計画最終案を示して報告・意見交換

2. 今後の日程

日程	地域まちづくり未来事業計画	総合計画
10月～ 12月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 計画案策定 (31年度事業については、先行して予算要求) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 成案編集・調整 10月：専門委員会 11月：審議会 12月：審議会 12月：議会全協
1月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 予算編成、内示 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 答申 ■ パブコメ
2月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第4回地域振興懇談会 ・ 計画最終案を示して意見交換 ■ 懇談会での意見を踏まえた完成案について、地域振興課で取りまとめ（決裁）＝計画完成 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民説明会 ■ 議会提案（基本構想）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 策定及び公表 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 3月定例会 ■ 策定及び公表

※ 「地域振興計画」については、「地域まちづくり未来事業計画」の進捗に併せて策定

温海地域振興計画 (素案)



平成 3 1 年 3 月
鶴岡市温海庁舎

目 次

1. 計画策定の趣旨	1
2. 温海地域の特性・概要	1
3. 温海地域のこれから目指す方向性	3
4. 施策の基本方針と具体的な展開方策	4
【参考資料】		
○統計資料	10

1. 計画策定の趣旨

鶴岡市は、平成20年度に中長期の地域振興方針となる「地域振興ビジョン」を策定し、また、平成25年度には鶴岡市総合計画の後期基本計画を踏まえた「地域振興計画」を策定し、地域資源や特性を活かしたまちづくりを推進してきました。

温海地域においては、このビジョンと振興計画に基づき、重点的に取り組むべき地域振興の柱を「あつみ温泉の振興」「海・水産業を活かした地域振興」「交流を核にした地域振興」の三本とし、各種プロジェクトに取り組んできました。

しかしながら、社会や地域を取り巻く情勢の変化や、現在の地域の実情を踏まえ、課題を据え直したうえで再度地域振興の方向を見直す必要性が生じていることから、鶴岡市第2次総合計画の策定に併せて、新たな地域振興計画を策定することとしました。

このたび策定した「温海地域振興計画」は、これまで取り組んできた個別プロジェクトの単なる見直しにとどまらず、温海地域振興懇談会をはじめ、より多くの市民との対話からいただいたご意見や提言を尊重し、本質をくみ取りつつ策定したもので、地域振興の目指す方向と重点的な取り組みについて明らかにするものです。

計画期間は2019年度から2023年度までの5年間とし、この計画に基づき、温海地域の更なる振興・発展に向け、持続可能な地域づくり、地域特性を活かした特色あるまちづくりを推進していきます

2. 温海地域の特性・概要

温海地域は、海・山・川・温泉など自然に恵まれた地域です。面積の約9割が山林で占められ平地が少ないことから、国道7号、国道345号、それらを東西に結ぶ県道沿線に一定の距離を置いて集落が形成されています。まとまった集落配置や豊かな自然環境などを背景に、27集落が特色ある歴史と伝統文化、生活文化を継承しながら、それぞれ高い自治意識のもと個性ある活動を展開してきました。



しかしながら、人口減少や少子高齢化が進み、自治機能の維持において、人材不足や財政難などの課題に直面しており、さらには、生活スタイルの変化も加わり、地域住民だけで伝統文化を継承することが困難な集落が多くなってきています。

住民基本台帳の平成30年3月末時点における温海地域の総人口は7,437人で、平成20年3月末と比較し2,176人減少（▲22.6%）しており、高齢化率は44.5%で同じく9.6ポイント上昇し、5集落が50%を超えています。人口動態は、本市他地域と比較しても、少子高齢化、人口減少の進行スピードが速く、特に出生数は平成27年度で29人（温海庁舎市民福祉課調査）とそれまでの30人台を割り込み、その後は20人台で下げ止まっています。とりわけ、出生数の低下は保育園の集約に繋がり、更なる子育て世代の流出要因となることが懸念されています。

農業は少量多品目生産の小規模農家が多く兼業農家が主となっています。小規模農家の離農が進む一方で農地の集約化や規模拡大が進まない現状にあります。農産物の主力である稲作については、地形的制約から大規模化が難しい反面、沢水を利用した米づくりなどにより、高品質で特色ある「米」を産出しており、併せて「焼畑あつまかぶ」や「越沢三角そば」など在来作物の生産やそのブランド化も進めています。

商工業については、地域内に工業団地がないため、小規模事業者が主としており、就業者の多くは鶴岡地域など他地域に働く場を求めています。そのため、地域内の産業別就業者数は、あつま温泉に関係する「飲食・宿泊業」の割合が相対的に高くなっています。また、観光の中心であるあつま温泉の入客数は日浴道あつま温泉IC開通後増加傾向にありますが、後継者不在などによる温泉旅館の廃業も相次ぎ、平成29年度実績でピーク時の54%に止まっている一方で、豊富な自然資源や特色ある伝統文化を活かした体験型観光の推進にも力を入れており、推進母体の特定非営利活動法人、受入れ団体及び行政が連携しながら体験メニューの開発や教育旅行の受け入れなどを進めています。

地域の交通については、はしご状にネットワークされている国県道を利用した自動車交通が「地域住民の生活の足」となっていますが、急峻な河川沿いを通る道路は未改良部分も多く、特に冬期間は不安を抱えての生活となっています。また、人口減少や自家用車の普及などによる地域公共交通の利用者減少は、バス路線の撤退や減便などを招き、自ら自家用車を運転しない高齢者、年少者の移動が困難となっており、また、家族の負担にもなっています。

一方、朝日温海道路が本格着工し10年以内に日本海沿岸東北自動車道の全線開通が見込まれています。このことは、全国的高速道路ネットワークとつながることとなり、温海地域にとっても大きなチャンスです。さらに、鼠ヶ関IC周辺の土地利用計画において、IC付近に新「道の駅」を設置する構想もあり、構想施設を活用した産業振興や地域振興が当面の課題となっています。

3. 温海地域のこれから目指す方向性

豊かな自然環境に恵まれた温海地域は、あつみ温泉に代表される観光資源や特色ある食文化、伝統文化など多様な「価値」のもと、27集落が個性ある活動を展開してきました。その一方で、進行する少子高齢化、人口減少は、農林水産業をはじめとする産業振興や地域コミュニティの維持など様々な分野に影響を及ぼしています。

人口減少社会といわれる現実を踏まえながらも、恵まれた自然環境や歴史を背景とした豊富な地域資源の保存・継承・発展を図り、それらの活用・連携による新たな「価値」の創造が求められています。今後見込まれる日沿道の全線開通を契機にした産業の活性化を図るとともに、地域資源の活用による交流人口や関係人口の拡大等を糧に、住み慣れた地域で生き生きと暮らし続けられる環境整備や基盤づくりを進めます。



これらを具現化するため、「あつみ温泉の魅力の向上と賑わい創出」、「日沿道延伸を活かした鼠ヶ関周辺地域の活性化」、「自然・歴史・文化を活かした交流人口、関係人口の拡大」、「農林水産資源のブランド化」、「次代を見据えた自治会機能とコミュニティ機能の強化」、「海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備」を6本の柱に据え、それぞれ関連性をもたせながら地域振興を図ります。

あつみ温泉の振興にあつては、景観を活かした温泉街の整備や、誘客対策により温泉街の賑わいづくりを促進し、日沿道全線開通後も通過点とならないような魅力ある温泉観光地を目指します。



日沿道延伸を活かした地域振興にあつては、計画されている道路休憩施設を活用した産業の活性化や鼠ヶ関地域の魅力向上による集客・誘客に加え、その周辺にも経済効果をもたらす施策展開を図ります。

交流人口や関係人口の拡大策にあつては、豊富な資源を活かした体験型観光を推進し、交流人口の拡大を図るとともに、地域と多様な関わりや思いを持つ人材を地域づくりに活かす仕組みを構築します。

農林水産資源を活用した地域振興にあつては、豊かな自然や歴史を背景とした特色ある農林水産資源や伝統産業を継承しつつ、温海地域独自のブランドを構築するとともに、生きがいづくりや所得の向上を図ります。

自治機能の維持や暮らし続けられる環境整備にあつては、地域内の集落が有している

特色ある自治機能を尊重し、それぞれの集落が将来にわたって自治機能を維持できるように支援するとともに、自然環境や地理的条件を踏まえ、地域住民が将来にわたって暮らし続けられるよう生活環境の維持向上や地域への愛着を育む取り組みを進めます。

4. 施策の基本方針と具体的な展開方策

基本方針（1） 「あつみ温泉の魅力の向上と賑わい創出」

温泉街の観光施設や景観、環境の整備により、来訪者が「そぞろ歩き」を楽しめる環境づくりを進めるとともに、魅力ある店舗創出や誘客対策により温泉街の賑わいづくりを促進します。

また、あつみ温泉の中長期的な戦略を官民連携により検討し、日沿道全線開通後も通過点とならないような魅力ある温泉観光地を目指します。



〈具体的な展開方策〉

①あつみ温泉街の景観整備

あつみ温泉の観光資源である温海公園（あつみ温泉バラ園）や桜並木の再整備を図るとともに、足湯などの滞留拠点の改修や植栽の奨励による景観整備を進め、温泉街の魅力の向上に努めます。

②あつみ温泉街の賑わいづくり

2021年の「開湯1200年」、2022年の「庄内藩の湯役所設置400年」などインパクトのある集客効果の高いイベント開催を支援するとともに、朝市広場の有効活用や新規出店に対する支援により、温泉街の賑わい創出を進めます。

③魅力ある温泉観光地に向けた中長期戦略の検討

あつみ観光協会や温海温泉旅館組合、地域住民、行政など官民が一体となり、あつみ温泉の中長期的な戦略の検討を進めます。

基本方針（２） 「日沿道延伸を活かした鼠ヶ関周辺地域の活性化」

日沿道の延伸に伴い、計画されている道路休憩施設を活用した産業の活性化や鼠ヶ関地域の魅力向上による集客・誘客に加え、その周辺にも経済効果をもたらす施策展開を図ります。

併せて、庄内浜産魚介類を活用し、漁業のまち「鼠ヶ関」の知名度向上を図ります。



〈具体的な展開方策〉

①新「道の駅」を活用した地域振興

計画されている道路休憩施設を地域産業の活性化につなげていくためのプラットフォームの構築や人材の育成を図ります。

②既存「道の駅」の有効活用に向けた検討と施設整備

日沿道の延伸後において、道路休憩施設を拠点とする観光まちづくりを進めるため、既存「道の駅」のあり方を検討し、有効活用を図るための必要な支援を行います。

③鼠ヶ関地内の賑わいづくり

みなとオアシスの構成施設となっている弁天島周辺エリアをはじめとした環境整備など、鼠ヶ関に「人」を誘導する仕組みづくりや観光地としての魅力づくりを進めます。

基本方針（３） 「自然・歴史・文化を活かした交流人口、関係人口の拡大」

温海地域が有する豊富な自然や産業及び伝統文化を活用した体験型観光や教育旅行の受入れを推進し、外国人旅行者も含めた交流人口の拡大を図るとともに、地域を離れた人材や地域と多様な関わりや思いを持つ人材を地域づくりに活かす仕組みを構築します。



〈具体的な展開方策〉

①交流人口の拡大による地域活性化

体験型旅行の受け入れ拡大や交流人口の拡大を目指すNPO法人自然体験温海コーディネートネットを引き続き支援するとともに、民泊（農泊）については、農家等の意向も考慮しながら受け入れ環境の整備を進めます。

②インバウンド環境の整備推進

交流人口の拡大等を図るため、関川地区活性化計画の目標達成に向けた取り組みを支援します。



③関係人口拡大の仕組みづくり



地域を離れた人材や地域と多様な関わりや思いを持つ人材を関係人口として、ふるさと支援や情報交換などの仕組みづくりを進めます。

基本方針（4） 「農林水産資源のブランド化」

豊かな自然や歴史を背景とした特色ある農林水産資源や焼畑などの伝統手法を守り継承しつつ、温海地域独自のブランドを構築するとともに、生きがいつくりや所得の向上を図ります。

また、貴重な地域資源である国指定の伝統的工芸品「羽越しな布」の保存・継承を支援するとともに、製品開発や未利用資源の活用など新たな取り組みにもチャレンジし地域振興を図ります。



〈具体的な展開方策〉

①地域の食文化継承による地域振興

古くから栽培されている在来作物等の継承や認知度向上を図るとともに、伝統農法である焼畑については、資源循環に配慮しながら、栽培技術の継承と再生林をあわせた取り組みを支援します。

②温海地域高齢農業者の生きがいつくり

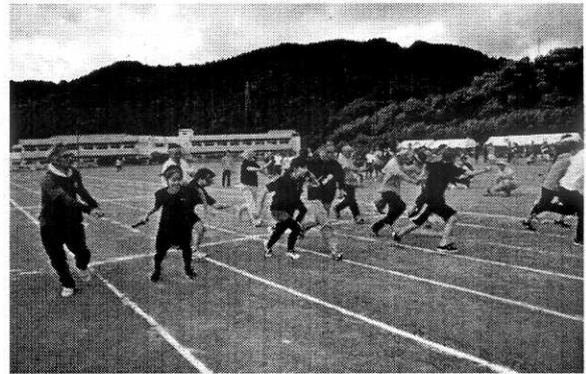
少量多品目でも流通できる仕組みづくり、鳥獣による農作物被害を軽減する取り組みを進め、高齢農業者も生きがいを持って農業を続けられる環境整備を図ります。また、地産地消を推進するとともに、産直体制の強化再編の検討を進めます。

③地域資源を活用した農村集落の活性化

「羽越しな布」の振興を図るため、後継者育成や経営体制の強化に向けた取り組みを支援するとともに、未利用資源の活用や他の素材とのコラボレーションなど新たな価値の創造を目指します。

基本方針（５） 「次代を見据えた自治会機能とコミュニティ機能の強化」

地域内の集落が有している特色ある自治会機能を尊重し、それぞれの集落が将来にわたって自治機能を維持できるように支援するとともに、高齢者世帯の増加を見据えた新たな情報伝達体制の構築を図るため、住民との対話を重ねながら、その調査研究に取り組めます。



〈具体的な展開方策〉

①時代に即した情報伝達手段の構築

各自治会の重要な情報伝達手段として長年使用してきた「有線放送」設備が老朽化し、維持管理に苦慮している現状や人口減少、高齢化の進行等を踏まえ、地域課題解決手法として、ICTを活用した「生活支援サービスも統合した新たな情報伝達システム」の調査研究に官民連携して取り組めます。

②地域コミュニティの基盤強化

持続可能な集落の将来像を示す「集落振興ビジョン」の策定を促し、ビジョンに基づく自治機能や地域コミュニティ活動の拠点施設を維持する取り組みを支援します。自治会単位での活動を補完し、広域的な活動や交流の拠点となっている施設について、その活用方法や管理形態を見直したうえで、施設の機能強化に取り組めます。

基本方針（6） 「海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備」

温海地域の自然環境や地理的条件を踏まえ、地域住民が将来にわたって暮らし続けられるよう、道路ネットワークの強化など生活環境の維持向上を図るとともに、地域への愛着を育む取り組みを進め、多様な主体が連携し、高齢者が活躍する場の創出や住民同士が支えあう地域づくりを推進します。



また、地域に有する遊休資産を活用し、地域活力の創造につなげる取り組みを進めます。

〈具体的な展開方策〉

①資源を活かした地域活力の創造

温海地域内に存する遊休資産、特に廃校の利活用については、市場性の有無や実現性の高い事業スキームについて、想定される事業者との対話により検討を行い、その活用の実現を目指します。



②地域に即した生活交通手段の確保

路線バスの廃止など地域公共交通網の現状を踏まえ、新たな住民の「足」の確保を図るため、鶴岡市地域公共交通網形成計画との整合及び地域住民との対話に配慮しながら、持続可能な公共交通網形成を目指します。併せて、遠距離通学となっている高校生に対する支援に取り組めます。

③次代を担う人材への投資

世代間交流などによる郷土愛の醸成に加え、健康寿命の延伸を図るため、高齢者の知恵と能力の活用など高齢者が生き生きと暮らせる環境づくりを進めます。



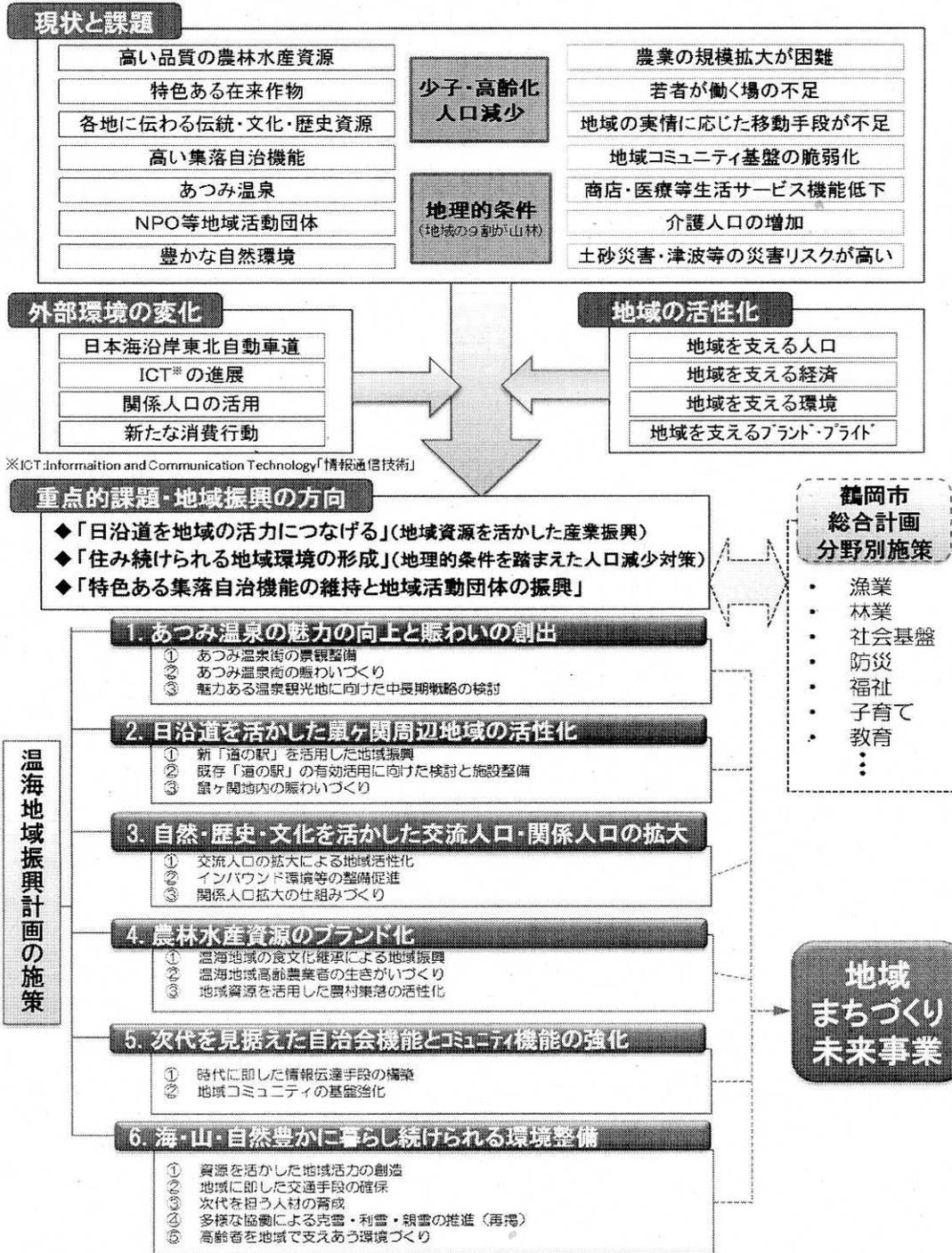
④多様な協働による克雪・利雪・親雪の推進（再掲）

住民と行政、住民と多様な団体との協働や集落内共助による克雪、利雪及び親雪対策の検討を進め、生活環境を維持する取り組みに併せ、雪を交流や体験観光に活用する取り組みを推進します。

⑤高齢者を地域で支えあう環境づくり

高齢者世帯の増加を踏まえ、介護予防活動と買い物支援を一体的に提供するサービスにより、住み慣れた地域でいつまでも生活できる環境を整備します。

■ 温海地域の施策の方向性



参考 温海地域の統計

温海地域まちづくり未来事業(案)

平成30年10月25日現在

No.	区分	事業名	事業内容	事業期間	H30	H31	H32	H33	H34	H35	備考
1	あつみ温泉の魅力の向上と賑わい創出	あつみ温泉バラ園整備事業	高齢者や幼児、障がい者など幅広い世代が楽しめる、観光客や市民の憩いの場となるような公園へのリニューアル(バリアフリー化等)を図る。	H30~H32	基本計画	実施設計	改修工事				
2		温泉街景観づくり事業	温泉街の桜並木の更新や街路灯のLED化を通して魅力ある温泉街を創出する。 【一部団体等への補助】	H30~H34		桜の植替え及び道路復旧					
3		朝市広場環境整備事業	滞留空間となる足湯等の整備や既存店舗スペースの改修を支援する。 【団体等への補助】	H32~H34		計画検討・調査	足湯等の整備	店舗改修支援			
4		あつみ温泉集客イベント実施事業	あつみ温泉野外能楽「せせらぎの能」の開催支援を継続するとともに、H33の「あつみ温泉開湯1200年」、H34の「あつみ温泉酒井藩公の湯役所設置400年」記念事業を支援する。 【団体等への補助】	H30~H34	能楽を活用した集客イベント事業の開催支援 ○	能楽を活用した集客イベント事業の開催支援 ○	あつみ温泉「開湯1200年」記念イベント開催支援 ○	あつみ温泉「開湯1200年」記念イベント開催支援 ○	あつみ温泉「酒井藩公の湯役所設置400年」記念イベント開催支援 ○		
5		あつみフードPR事業	朝市広場を活用した賑わいイベント「朝市広場DEひるいち」の開催を支援する。 【団体等への補助】 温海地域の飲食店や店舗の自慢の一品及び農林水産関係加工品等をPRするイベント「あつみ食べ物自慢フェス(仮称)」の開催を支援する。 【団体等への補助】	H30~H34		ひるいち開催支援	あつみ食べ物自慢フェス開催支援				
6		魅力ある店舗づくり事業	温泉街への新規出店者及び既存店舗・商店経営者に対し、賃借料や改修費の一部を支援する。 【団体等への補助】	H31~H33		スキームの検討	活用支援				
7		温泉街フラワー整備事業	温泉街のおもてなし表現のため、沿道の花壇・花鉢等にバラを中心とした花の植栽を支援する。 【団体への補助】	H32~H34			花の植栽支援				
8		温海地域観光戦略策定事業	ワークショップの開催や専門家等からの助言、実践指導等により、あつみ温泉や鼠ヶ関地域の観光戦略づくりを支援する。	H31~H33		観光戦略づくりのための検討会等の開催		計画内容の見直し			

温海地域まちづくり未来事業(案)

平成30年10月25日現在

No.	区分	事業名	事業内容	事業期間	H30	H31	H32	H33	H34	H35	備考	
9	日 沿 道 延 伸 を 活 か し た 風 ヶ 関 周 辺 地 域 の 活 性 化	新「道の駅」関連人材育成事業	地域資源活用などによる地域経営のノウハウ会得のための人材育成を支援する。	H33~H34				外部研修派遣				
10		道の駅「あつみ」しゃりん整備事業	道の駅「あつみ」しゃりんのあり方検討に向け検討委員会(仮称)を開催する。併せて、日沿道開通後のしゃりんの有効活用に向けた施設整備を支援する。 【団体等への補助】	H31~H35		庁内検討会議の開催	検討委員会の開催		実施設計	改修工事	※日沿道関連の事業進捗に併せて実施	
11		はなさき路の賑わいづくり事業	はなさき路の老朽化している浜茶屋や周辺施設(公衆トイレ等)を再整備するとともに、「恋する灯台」のPRに向けた案内看板等の設置及びハート型の絵馬の奉納や撮影スポットを整備する。	H31~H33		観光戦略づくりのための検討会等の開催	実施設計(公衆トイレ) 案内看板の設置等	施設整備(公衆トイレ)				
12		口、自然 関・歴 係人口 の文化 の拡大 を活か した交 流人	あつみ体験旅行推進事業	豊富な地域資源を活かした体験型観光を推進するための活動を支援するとともに、民泊(農泊)受入れ者の施設改修を支援する。 【団体及び個人への補助】	H31~H33				活動団体を補完的に支援	農泊受入れ者の施設改修支援		
13		関川地区活性化計画推進事業	関川地区活性化計画の目標(交流人口の拡大、しな織の売上増)達成のため、関川地域活性化イベント(田舎のうまいもん食堂)の開催を支援する。 【団体等への補助】	H31~H32		関川活性化イベント開催支援						
14		地域支援ネットワーク推進事業	地域活動への参加呼びかけ、情報提供や交流などを行うプラットフォームを整備する。	H31~		・仕組みの調査研究 ・庁内検討会議の開催						

温海地域まちづくり未来事業(案)

平成30年10月25日現在

No.	区分	事業名	事業内容	事業期間	H30	H31	H32	H33	H34	H35	備考	
15	農林水産資源のブランド化	糸の文化で新たな価値創造プロジェクト	鶴岡市が有する「古代(しな糸)」「近代(シルク)」「現代未来(人工蛛糸)」の糸のコロナレーションによる新たな商品開発を模索する。	H31~H32		シルク等との製品開発						
16		しなの花活用プロジェクト事業	しなの花を活用した商品の販売支援(販促ツール作成補助)や慶應先端研等との連携による新商品の研究開発を支援する。 【団体等への補助】	H31~H33		しなの花化粧品 の販売及びPR 用HPの作成支 援	しなの花化粧品チラシ作成支援					
17		温海地域在来作物振興事業	「焼畑あつみかぶ」「越沢三角そば」などの在来作物を活用した地域振興に係る取り組みを支援する。 【団体等への補助】	H30~H33		GIマーク制作 支援	タイアップ事業でのPR活動 販促グッズ作成					
18		中山間集落モデル農林業実践事業	皆伐跡地での焼畑あつみかぶやワラビの栽培及び、その後の再造林と保育活動を一体的に展開する取り組みを支援する。 【団体等への補助】	H30~H34			越沢三角そば文化継承に対する支援		栽培及び販売・販路拡大事業支援			
19		温海地域小ロット農産物集荷システム整備事業	農家所得の向上と高齢農家の生きがいづくりを図るため、道の駅で実施している地域農産物の集荷体制を強化する。併せて、森の産直カーの再配置を支援する。 【団体等への補助】	H30~H32		集荷に係る人件費支援		森の産直カー 整備				
20		鳥獣被害防止対策モデル事業	忌避作物栽培圃場と一般圃場における猿被害軽減比較を調査検証するとともに、忌避作物の栽培を支援する。 【法人、任意組織等への補助】	H31~H34		鳥獣忌避作物効果の調査研究		鳥獣忌避作物の種子等購入の一部助成				
21		産直組織活動基盤強化事業	複数ある産直組織の一本化を検討する協議会を設立し、その活動を支援する。 【団体等への補助】	H31~H33		協議会の設立	検討会議の開催		研修会の開催			
						先進地視察						

温海地域まちづくり未来事業(案)

平成30年10月25日現在

No.	区分	事業名	事業内容	事業期間	H30	H31	H32	H33	H34	H35	備考	
22	海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備	ICTを活用した課題解決研究事業	各自治会の重要な情報伝達手段として長年使用してきた有線放送設備が老朽化し、維持管理に苦慮している現状や、人口減少、高齢化の進行等を踏まえ、地域課題解決手法として、ICTの活用を検討し、生活支援サービスも含めた新たな情報伝達システムの調査研究を行う。	H31～		先進事例の調査 庁内推進体制の確立 生活支援ニーズの調査分析 集落懇談会	システム概略構築、モデル事業検討 モデル地区選定		システムの構築	システムの運用		
23		地域コミュニティ基盤強化戦略事業	広域的な利用に供する主要施設について、指定管理者と連携のうえ活用手法等の見直しを図りつつ、必要な改修を年次的に行う。併せて、災害時の避難所として利用される施設について、施設管理者と連携のうえ機能性向上を目指す。 【一部施設管理者への補助】	H31～H35		活用手法の検討	施設の長寿命化計画の策定		施設の必要な改修			
24		温海地域遊休資産等利活用に向けた市場調査事業	遊休資産である廃校(旧山戸、福栄、五十川小学校)等について、ノウハウのある外部の提案やスキルを活用し施設の有効活用を図る。	H31～		サウンディング型市場調査の研究	個別資産のサウンディング実施		事業者公募の実施			
25		温海地域公共交通網形成事業	路線バス廃止など地域公共交通網の現状を踏まえ、新たな住民の「足」の確保を図るため、地域住民と対話を重ねながら、将来に向け、より最適な公共交通網形成を目指す。	H30～H33	バス、タクシー事業者との意見交換		・現状分析及び事例収集 ・集落懇談会 ・アンケート調査 ・温海地域に即した事業手法の検討 ・実証モデル集落の選定		実証モデルの開始と事業検証			
26	温海地域高等学校等生徒通学費支援事業	温海地域は、地理的要因により高校生の通学費負担が大きいため、費用の一部に対し支援を行い、条件不利地であっても、将来にわたり暮らし続けられる生活環境を構築する。 ※ 過疎地域である温海、朝日両地域においてモデル的に実施 【個人への補助】	H31～	支援制度の検討		高校生世帯に対する補助						
27	いきいき地域づくり推進事業	集落振興ビジョンに基づき実施する「高齢者等の身体及び精神機能の維持のための事業」「高齢者等の社会参加を促進するための事業」「ボランティア活動を普及するための事業」「世代間の交流事業」に対し一定額の支援を行う。 【自治会への補助】	H31～H35			事業実施自治会への補助(各年度20団体程度を想定)						
28	「語らい広場」事業	70歳以上の一人暮らし、二人暮らしの方を対象に、公共施設等を会場とした介護予防活動や高齢者相互の交流活動を実施する。福祉バス等での送迎を行い、商業施設での買い物支援を一体的に提供する。 【福祉団体への委託事業】	H31～H35			地区ごとに定期的に事業を実施			高齢者の日常生活支援の進捗状況により事業継続の必要性を判断			

地域まちづくり未来事業計画の策定について

1 地域まちづくり未来事業計画とは

「地域まちづくり未来基金」を主な財源として、人口減少に立ち向かう、真に地域振興に資する事業のうち、平成31年度からのおおむね3年程度を目途に実施する事業について明らかにするもの。

2 地域まちづくり未来基金について

「地域まちづくり未来基金」は、従来の「まちづくり基金」の名称を変更し、地域まちづくり未来事業の財源とすることとしている。

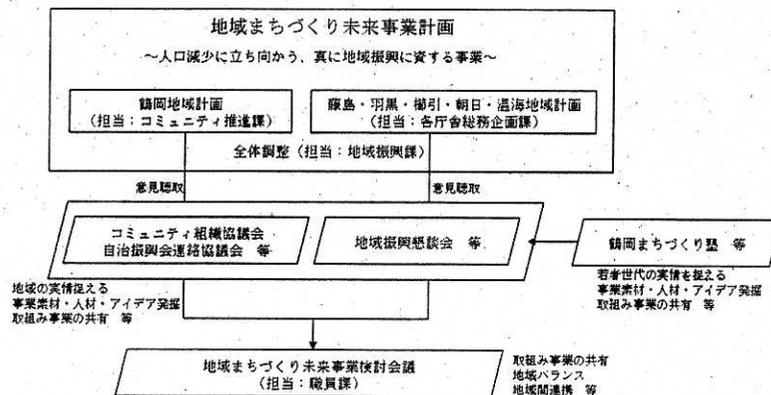
今後、毎年度の決算剰余金を活用し積み増しをしていくこととしており、基金積立額と起債充当事業費を合わせて総額50億円規模を目標としている。

3 計画策定方法

計画の策定は、コミュニティ推進課及び各地域庁舎総務企画課において地域ごとに作業を進め、地域振興課が全体の調整を行う。

地域振興懇談会やコミュニティ組織協議会、自治振興会連絡協議会、鶴岡まちづくり塾等ほか、地域の様々な団体から意見を聞くとともに、全地域を俯瞰する観点から地域まちづくり未来事業検討会議においても意見を伺う。

【地域まちづくり未来事業計画策定のイメージ】



4 計画策定における視点と対象とする事業の基準

(1) 計画策定にあたっては、次の点を重視する。

- ① 自立分散型のまちづくり
 - ・地域が主体的に活動できる事業であること
 - ・地域の意欲、創意が生かせる事業であること
 - ・地域が元気を出せる事業であること（地域の意欲的活動を後押し）
 - ・地域の特色を生かした独創的企画を奨励すること
- ② 人材づくり
 - ・事業の推進を通して、地域を支える人材が生まれ育っていくこと
 - ・意欲にあふれるプレーヤーの登場を促すこと（移住定住も含め）
- ③ 具体性
 - ・事業計画は個別具体的であること（理念作文にならないこと）
 - ・目的が明確で実効性のある特定プロジェクトであること
- ④ 地域・若者の意見聴取
 - ・地域で開催される会合等の場において、地域や若者の声を聞き、地域の実情を捉えるとともに、事業素材や人材、アイデアの発掘に努めること
- ⑤ 他計画等との整合性の確保
 - ・新総合計画や行財政改革推進プラン、公共施設等総合管理計画等、他の計画との整合を図ること

(2) 事業の選定にあたり、次のとおり基準を設けている。

- ① 他地域と著しく不公平感を生じさせないこと
- ② 経常的な経費や、全市統一的な調整が必要なものは除くこと
- ③ 後年度に維持経費として多額の財政負担を生じさせないこと
- ④ 期間限定のスタートアップ支援であり、継続的な支援ではないこと

5 事業の検討状況

(1) 旧町村地域

今後の地域のあり方について、地域振興懇談会や鶴岡まちづくり塾をはじめ地域住民から伺った意見をふまえ、新たな地域振興計画と併せ検討を行い、各地域庁舎において事業計画案を作成している。

(2) 鶴岡地域

広域のコミュニティ組織等へのヒアリングで伺ったまちづくりに関する意見や提案をふまえ、住民が主体となって行う地域からの事業提案に対して支援を行う方向で事業内容を検討している。